

平成30年度 会計別決算

会計名	歳入(収入)決算額	歳出(支出)決算額
一般会計	97億6,308万円	94億1,128万円
特別会計	56億1,603万円	52億7,420万円
国民健康保険	25億5,963万円	25億280万円
土地取得	1億7,047万円	1億7,047万円
下水道事業	5億9,326万円	4億8,992万円
介護保険	19億2,753万円	17億5,426万円
後期高齢者医療	3億6,514万円	3億5,675万円
企業(水道事業)会計	5億9,461万円	6億4,287万円
収益的	5億8,910万円	5億3,736万円
資本的	551万円	1億551万円
総合計	159億7,372万円	153億2,835万円

～平成30年度健全化判断比率と資金不足比率～

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、財政の健全性に関する比率の「健全化判断比率」と「資金不足比率」を公表します。

地方公共団体は、健全化判断比率により実質赤字比率などの各指標で「健全段階」「早期健全化段階」「財政再生段階」に区分され、早期健全化段階や財政再生段階となった場合には、財政健全化計画・財政再生計画に従って財政健全化を図ることになります。公営企業は、資金不足比率が経営健全化基準以上となった場合には、経営健全化計画を定めなければなりません。

阿久比町の平成30年度決算では、健全化判断比率は「健全段階」となり、資金不足比率は基準を下回りました。

《健全化判断比率》

(単位:%)

指標名	町の比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	14.57	20.00
連結実質赤字比率	—	19.57	30.00
実質公債費比率	2.5	25.0	35.0
将来負担比率	40.1	350.0	—

※ 町の実質赤字比率、連結実質赤字比率については、赤字ではないため比率は「—」表示

※ 将来負担比率については、財政再生基準が設定されていないため「—」表示

《資金不足比率》

(単位:%)

事業名	町の比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0
下水道事業特別会計	—	

※ 各会計とも資金不足額がないため比率は「—」表示

〔用語説明〕

- ◇**実質赤字比率** 福祉、教育、まちづくりなどを行う一般会計などの赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すものです。
- ◇**連結実質赤字比率** 全ての会計の赤字や黒字を合算し、町全体としての赤字の程度を指標化し、町全体としての運営の深刻度を示すものです。
- ◇**実質公債費比率** 借入金の返済額やこれに準ずる額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すものです。
- ◇**将来負担比率** 一般会計の借入金残高だけでなく、将来支払っていく可能性のある負担などの現時点での残高の度合を指標化し、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すものです。
- ◇**資金不足比率** 公営企業の資金不足を公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示すものです。